

投書

SNS活用して
生活豊かにする学生 西川 綾乃 22
(京都府城陽市)

私の生活にはインターネットのSNSが欠かせない。地元や高校時代の友だちの電話番号を知らなくても、簡単に連絡が取れる。おいしいお店や新しいカフェがオープンする情報も、全てSNSから発見できる。

今、世界ではSNSによるいじめや批判などの悪影響も言われている。私が問題だと思うのは、SNSを面白くして注目を集めようと、悪口や嫌な内容を書いたり、見せる必要のない写真や動画を投稿したりすることだ。人を傷つけ、トラブルの原因になるからだ。

善しあしはあるが、私はネットが普及した時代に生まれて良かったと思う。大学を卒業して、5月からオーストラ

気流

題字・角元正燦
イラスト・野村咲絵

春キャベツ

U-25

リアの語学学校に1年間留学する。これからもSNSを活用して多くの知識を得て、私も、周りの人たちの生活も豊かにしていきたい。

「それぞれの新学期」



張 序 13 (大阪市)

よみうり
時事川柳
井上一箇 選

らしくない笑顔を見せて立候補
付度が土筆を連れてまた芽吹く
防犯カメラが無くてはならぬ国
銀行に行かなくてよい奇数月
おしゃれするのは美しく老いるため

和歌山 林 一晶
兵庫 小 利和
大阪 桜田 秀夫
奈良 山本 啓
大阪 村上 けい子

胸に響いたお二人さんの「自慢」

無職 古林 敏文 71
(兵庫県加古川市)
「自慢です!!」(3月19日)の2人の小学生、徳島市の坂東優さんと奈良市の仲峯大心君にすがすがしさを感ぜ、勉学のレベルの高さに驚きました。

共に12歳。全校で子どもが54人だけの小さな学校に通っているそうです。坂東さんは、自分が住む町の人たちの優しさを伝え、仲峯君は、あいさつ日本一を目指すとしていました。12豊かな感性と表現力。

ひびき

歳の言葉とは思えないほどです。私は団塊の世代ですが、自分の子ども時代にはこれほどの文章を書くのは到底不可能だったでしょう。先生の指導の素晴らしさもあると思います。感想を書かずにはいられません。坂東さんは徳島の雄大な景色を力に、仲峯君は失敗を恐れずに、「頑張れお二人さん」とエールを送ります。

投稿先 〒530・8551 読売新聞大阪本社「気流」係。ファクス(06・6366・1890)、電子メール=o-tousho@yomiuri.com 住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記。読売新聞の電子メディアに掲載することがあります。二重投稿は不可。投稿はオリジナルのみ。返却しません。採否の問い合わせはご遠慮ください。添削することがあります。川柳は3句まで。

絵画は秘密満載
美術館へ行こう中学生 林田 時和 14
(松江市)

私は、美術館に行くのが好きではなかった。絵画を見ても、「いやー、絵が本当に上手で、すごいな」としか思えなかったからだ。

なぜだろう? それは、画家が絵画の中に隠した「秘密」を知ろうとしていなかったからかもしれない、と最近、気づいた。

お国自慢探せば
意外な発見ある中学生 中川 瑠碧 14
(高松市)

香川と言ったら、何を思い浮かべるだろうか。多分、たいていの人が「うどん」と答えるだろう。しかし、それ以外にも誇れるものがたくさんある。

その例を二つ紹介しよう。一つ目は小豆島のオリーブだ。オリーブオイルはもちろん、家畜の飼料にもなり、「オリーブ牛」や「オリーブ豚」の産地でもある。二つ目は、丸亀の伝統工芸品のうちわだ。大きなものからふだんの生活に使えるものまで、多種多様な手作りのうちわがある。

自慢できるものは、まだまだ多くある。それぞれの地方や地域に、あまり知られていないが誇れる物事がたくさんあると思う。自分の住む町はもちろん、他の地域のことも調べてみると、何か意外な発見がある。

◆U-25投稿募集
25歳までの若者が対象のコーナーで火曜日に掲載。

レオナルド・ダ・ビンチの「最後の晩餐」という有名な絵画がある。この絵画の中には、鑑賞する私たちが意識していないところまで、遠近法などの技術を使った工夫がある。それを知ってから、私は、実際に見て工夫を確かめたいと思い始めた。

1枚の絵画の中にある、たくさんの秘密を見つけ出すために、時には美術館を訪れ、様々な作品をじっくり鑑賞してみよう。そして、いつか「最後の晩餐」をこの目で見てみたい。

見ができて面白いかもしれない。ぜひ、やってみてはどうだろうか。

お団子味わうと
亡き祖父浮かぶ高校生 庄子沙也加 16
(仙台市)

小5の時に亡くなった祖父が大好きだった団子屋さん、母と足を運びました。いつも食べきれないほどお団子を買ったのですが、それを祖母と食べる祖父の背中が頭に浮かんで離れず、家族で祖父の話をしていました。祖父は私たちの心の中で生き続けていると実感しました。

最近はお墓参りもスマホで出来ると聞きます。ですが大事なものは、どんな形でも故人を思い出す機会を大切にすることなのかなと思います。

平成から令和へ
投稿募ります

「U-25」では、新しい時代を迎えるにあたっての投稿を30日に特集します。次代に望むこと、自分の抱負や目標、チャレンジしたいことなどを、19日までにお寄せください。次代を担うのは若い皆さんです。投稿をお待ちしています。(満)

平成31年4月9日(火)
読売新聞に掲載